

おわりに

本誌では、自然と調和した中での「地域活性化策」の一つとして、アグリビジネスの展開～グリーンツーリズム～を考察してきた。本県は農業粗生産額が全国3位の農業県でもある。首都圏に位置する優位性の状況下で、更に、食への安全・安心への関心が高まるなか、地域資源である農業との関連産業の結びついた、新たな産業活性化が望まれている。茨城県においても、平成16年2月に「茨城農業改革大綱」を策定し、

①消費者のベストパートナーとなる農業の確立

②生産現場提案型農業への転換

③喜んで食べてもらえるという経営者意識改革

の3つの方向性を打ち出した。

ただ単に、農業の活性化に留まらず、地域活性化や再生の糸口として、アグリビジネスを考える事が重要だと思われる。更に、首都圏に近い立地による、観光・体験型のビジネスモデルや産直センター等、コミュニティ重視の活性化策等も見出される。

これは現在、最も見直しが求められている、「自然」や「人との交流」の大切さを実現できる、社会的機能も果たす事が可能な事業である点も見逃せない。その視点を踏まえた上で、地域活性化を確実にする為には、

①その様な、地域資源を十分に掘り起こす

②異業種の連携

③人材の発掘と連携

④「特区」、「地域ブランド」等の新しい考え

⑤推進の為の知恵～組織づくり、企画・PR

が、重要なポイントとなる。特に人材の交流連携は、行政が支援すべき最も重要な事業であり、その結び付きによる、民間活力の活性化が、本来的に一番望まれる事業であろう。実際に、この調査において大八洲開拓農業の歴史を、杉原組合長から伺ったが、その苦労の中で築き上げた地域での物語は、真に現代社会の失った大切な心、その物であり、大変感銘を受けた。

ひた向きの地域活性化の努力を、我々、地域に生きる、中小企業診断士が、積極的に見つけ出し、結びつけ、花を咲かせる事が求められており、その実現に向けての技能向上を、更に個人や支部内で図っていきたい。

その提言を、自分たち中小企業診断士に課して、この報告書を終了いたします。

〔参考文献〕

会員向け研修レポートの作成に際し、下記文献の中から一部引用させていただきました。謹んでお礼申し上げます。

本テーマに関するいずれも優れた労作であり、研究資料として一読されることをお勧めします。

(順不同)

- ・ 「人と地域をいかす グリーン・ツーリズム」 21 ふるさと京都塾編 学芸出版社
- ・ 「おもしろ『農』経営教本」 長谷川俊郎著 明日の農業を考える会「21」

(伊賀の里モクモク手づくりファーム内)

- ・ 「フランス田舎めぐり」 大橋順子著 JTBパブリッシング
- ・ 「フランスの教育ファーム」 大島順子著 日本教育新聞社
- ・ 「もうひとつの日本は可能だ」 内橋克人 光文社
- ・ 「ヨーロッパ・田園と農場の旅」 道下弘紀著 東京書籍
- ・ 「ワインとミルクで地域おこし」 大森いく子著 永岡書店
- ・ 「グリーン・ツーリズムとむらまち交流の新展開」 持田紀治編 家の光協会
- ・ 「日本型グリーンツーリズムと中山間ちいきの振興に向けて」

渡辺均・中川悦郎 GMIマーケティング叢書

- ・ 「数字でわかるグリーンツーリズム 2004」 (財) 都市農山漁村交流活性化機構
- ・ 「グリーン・ツーリズム実践の社会学」 青木辰司著 丸善株式会社
- ・ 「ブランディング・カンパニー」 竹生孝夫著 経林書房
- ・ 「つくばスタイル」 エイムック 948 えい出版社
- ・ 「企業価値を高める経営にブランドは不可欠」 田中英富著 述論文

(株) インターブランドジャパン エグゼクティブ コンサルタント

- ・ 「地域経済総覧 2004年版」 週刊東洋経済 臨時増刊 2003・10・8発行
- ・ 「都市データパック 2004年版」 東洋経済別冊 2004・5・5発行
- ・ 「守谷情報・観光マップ」 第3版 茨城県守谷市観光協会

(巻末付表)

1. 大八洲開拓農業組合開拓年譜

年	月 日	事 項
昭和21年	9月9日	満州より引き揚げ、佐世保港に上陸
	9月12日	東京着、学生連盟の学生に励まされる。上野寛永寺宿泊
	9月13日	外務省、農林省にて帰還の挨拶、当分茨城県内原の日輪宿舍収容決定
	9月14日	日輪宿舍に到着
	9月15日	内原開拓援護会に出頭 今井所長 江坂先生
	9月23日	江坂先生と入植地について検討
	9月25日	茨城県北相馬郡菅生村入植地の視察
	9月27日	茨城県庁、県農業会に出頭 開拓入植地について陳情
	9月29日	山形県庁に出頭 帰還報告及び今後の開拓再建について陳情
	10月1日	茨城県知事に対し、入植願を提出 入植希望者40名 代表 佐藤孝治
	10月3日	避難状況報告書発送 満州から持ち帰った資料を整理し、ガリ版印刷の上「大八洲開拓団避難状況報告書」として関係諸官庁、郷里の関係町村、団員の実家などへ発送する。
	10月8日	山形県庁より、開拓課の荒木事務官が茨城県庁に出頭 日輪宿舍にも訪れ打開策を協議
	10月9日	農林省西ヶ原農事試験場において入植に関する会議出席 荒木事務官に随行、傍聴する。
	10月11日	入植地が決定する。 茨城県相馬郡菅生村及び大井沢村にまたがる「菅生沼地区」に入植と決定する。 事業実施機関「茨城県農業会」
	10月28日	在外資産登録 「満州大洲開拓団在外資産一括報告書」を作成し、山形県庁に提出する。
	11月10日	先遣隊菅生地区に入植 受け入れ準備を開始
	11月13日	本隊菅生地区に入植 樽井常会長、鈴木芳太郎氏の特別な計らいを受ける。
	11月16日	内務省の堤防工事に出役開始
	11月18日	開墾に着手する。

昭和22年		大井沢村大木地先の利根川、鬼怒川の合流点に近い砂丘を開墾し、11月30日までに大小麦70アール蒔き付けをする。
	11月19日	幕舎の構築を開始 内原開拓援護会及び県農業会から天幕6張りを借用、浅間山に天幕を張り一部は幕舎生活に入る。
	11月16日	食料事務所から甘藷（さつまいも）の特配を受ける。 食料事務所菅生支所長江連為三郎の特別な計らいにより、供出された国有甘藷400俵を入植者の食料として特別配給を受け、食糧危機を突破する。
	12月5日	食料用甘藷（さつまいも）の寄贈を受ける 菅生村農業会のお世話で村内36増産班から、食料として本日から中旬までの間約200俵の寄贈を受け感謝する。
	12月17日	県農業会主催開拓協議会 農業会友部開拓相談所にて助成に関する説明が行われた。 開拓者資金の貸し付け限度 （1戸当たり）17,000円 住宅建設国庫補助 （1戸当たり）3,000円
	12月19日	入植者全戸に対して開拓者資金交付の指令を受ける。事実上の入植承認となる。
	12月25日	入植式を挙げる。 樽井集会所にて満州開拓団物故者協同慰霊祭並びに入植式典を行い、浅間山の幕舎前に仮舞台をつくって素人演芸会を催し、関係者機関、地元村民多数の参列を得て、粉雪降る中で盛会裏に終わる。
	12月上旬	冬野菜の寄贈を受ける
	から翌年春まで	菅生村農業会の御世話で、地元樽井部落・下香部落始め村内有志から、冬枯れの時期に次々と野菜の寄贈を受け、翌春まで継続される。生活の危機を救われ感謝する。
	1月8日	野菜栽培用畑及び組合事務所用の家屋を借用する。 菅生村平松の富山政之氏のご好意により、富山氏所有の稲荷山の畑（野菜栽培のため）及び煙草収納用倉庫（組合倉庫用）を借り受けする。
	1月19日	大井村の有志から正月用物品を寄贈される。 大井村の野口長松氏、斉藤藤之助氏より、正月用糯米その他の正月用物

		品を寄贈され、明るい正月を迎えた。
1月25日		一言主神社よりお供えの餅を寄贈される。 菅生消費組合長鈴木芳太郎氏のお世話で、一言神社神主大塚茂樹氏から旧正月に神社にお供えの餅のお下がりを頂戴し、数人でリュックサックに詰めて背負ってきて、皆で腹いっぱいのご馳走になる。
1月27日		自給製塩業開始 水木浜にて開始
2月21日		大八洲開拓組合設立、知事の認可を受ける。 承認組合員40戸（任意組合）
4月18日		合同結婚式を挙げる 天幕の中で高橋左衛門ほか5組の結婚式を挙げる。 酒1升とありあわせの粗餐
4月19日		大型トラクターで開墾開始
5月23日		役牛の初導入
6月6日		乳牛を初導入
7月3日		開拓診療所開設 満州引き揚げ後九州医大で修行中の加藤恒夫氏が医師の資格を得て入植
9月5日		読売新聞編集局長高木建夫氏来訪 天幕に一泊する。
9月15日		カサリン台風来襲 全耕地水没、最初の台風の洗礼
9月20日		友末茨城県知事水害見舞いに来村 激励
9月23日		全国開拓民自興会の近藤理事が来訪 水害見舞い
9月28日		農林省東京農地事務局長が来訪 現地視察の上、天幕に一泊して懇談
10月3日		川上農学博士、白井医学博士が来訪 視察の上、天幕に一泊
11月9日		山形県庁より水害見舞いに来訪 山形県開拓課阿部氏、斉藤氏菅生に一泊して懇談
11月29日		白井博士が学生3名を連れて栄養調査を実施 以来数回にわたって指導を受ける。
11月23日		NHK開拓座談会

		全国開拓関係者 6 名、開拓再起について放送座談会を録音
昭和23年	1 月30日	大八洲開拓農業協同組合創立総会
	2 月17日	農林省から移動製材機を借り受ける。
	3 月22日	羊毛加工のホームスパン事業の開始
	4 月 1 日	製材工場を新築
	6 月21日	集中豪雨により田畑の冠水 41ヘクタール全耕地全滅
	7 月20日	NHK ラジオ放送 加藤医師が開拓地の医療問題について放送
	9 月16日	台風による水害 農耕地は全滅
	11月10日	入植 2 周年記念開拓祭
	11 日	農林省で派遣慰問団を編成、朝日新聞のニュースカーでキングレコードの歌手などが来て賑やかな祭典となる。
昭和24年	1 月10日	大八洲開拓農村工業農業協同組合設立登記完了
	6 月21日	梅雨期の集中豪雨により耕作地冠水
	9 月 1 日	キティ台風により全耕作地冠水
	9 月 9 日	菅生沼堤防工事促進と水害対策調査 東京農地事務局長、山形県開拓課原田係長、茨城県開拓課長、同耕地課長その他多数来訪され対策を調査研究。
	9月24日	集中豪雨による水害
	10月16日	山形県開拓課長が来訪 水害見舞いを兼ねて現地視察と慰問のため来訪
	12月 1 日	入植3周年記念開拓感謝祭
	2 日	開拓物故者慰霊祭 記念式典 素人演芸会 多数参加して盛会を極める。
	12月26日	農村工業小規模加工振興地区に指定
昭和25年	4 月13日	守谷町大原地区開墾作業開始

昭和26年	5月15日	東京連絡所を建築 東京浅草本龍寺の本田先生のご好意により、境内に連絡事務所を新築する。生産物の販売、建設業務の拠点
	7月4日	山形県議会議員一行開拓地視察に来訪 水害見舞いを兼ねて地区内を視察、激励される。
	7月28日	山形県議会議員団再度の訪問 開拓地巡視
	8月3日	集中豪雨による水害 農作物は全滅 共同宿舍浸水
	9月10日	農林省募集「開拓地経営に関する研究」の懸賞論文に応募する。 「私どもの村づくり」と題して応募、佳作に入選する。 執筆者 佐藤孝治氏
	4月19日	取手市白山町に牛乳販売店開く
	11月19日	NHKラジオ放送録音 「引揚者開拓地の医療施設」と題して東京のNHKスタジオにて録音 佐藤氏、加藤医師
	12月1日	大八洲開拓入植5周年感謝祭
	2日	「大八州神社」建立 「留魂碑」建立
	12月4日	茨城県農協発足3周年記念式典 水戸市で開催され、大八洲開拓農協は優良農協として表彰された。
昭和27年	1月31日	山形県開拓自興会長三沢一郎氏来訪 組合の建設、営農状況を視察、組合員を激励し、懇談
	3月21日	農林省開拓研究所の奥谷松治氏・的場徳蔵氏両氏が来訪 大八洲組合地区内を巡回し、経営内容について研究調査
	6月23日	有畜農家創設資金を借入、乳牛10頭を導入
昭和28年	6月7日	台風により冠水被害
	6月16日	新生活モデル団体に選定される。 茨城県・読売新聞社・県南村会主催の新生活モデル町村（団体）選定表彰事業において、モデル団体の指定を受ける。

昭和29年	7月9日	連日の降雨により、水田冠水 春以来の稲冠水のため枯れ死、2回改植したが全滅する。
	7月20日	流作にマンモス畜舎を建設 守谷町田中醤油屋の倉庫を買収し、解体して、流作に協同畜舎を建設する。建坪594平方メートル、マンモス畜舎の異名を生ずる。
	7月28日	開拓小学校分教場の竣工式
	11月13日	組合診療所の新築落成式
	11月17日	生活共同化モデル団体として表彰される。 6月16日にモデル団体として選定され、審査を受けた結果、第七部門優秀団体として、茨城県庁において表彰される。茨城県・読売新聞社・県町村会主催
	2月10日	組合開拓婦人部結成
昭和30年	6月1日	利根河川敷を牧野として占用認可申請 入植以来乳牛育成の放牧場として利用し、乳牛の増殖基地だった利根河川敷を、正式に牧野として建設省に占有許可の申請書を提出する。
	秋	念願の堤防が漸く完成する。
昭和31年	1月21日	菅生沼地区機場防水堤工事の請負施工 代行開墾建設用排水機場防水堤工事の施工にあたり、茨城県耕作課で指名入札が行われ、大八洲建設有限会社で落札し、工事を進める。
	4月30日	霜害発生し、被害甚大 季節外れの寒波に見舞われ、農作物その他の被害が広範囲にわたった。いわゆる「三一凍霜害」として尾を引く
	6月8日	大八洲開拓農協の指導監査、基礎調査 組合の経営不振のため、組合の実態調査を行い改善策をたてるため、県庁、土浦支庁、県開拓連から係員が来訪、予備調査を実施する。
	6月11日	大八洲開拓農協建て直しのための調査
	～13日	前記の予備調査に基づき、農林省東京農地事務局から富田技官・大橋技官、県庁から桑島係長外、県開連から打越課長外が来訪され、根本的建

	7月2日	て直しのための調査を行う。 大八洲開拓農協組合振興対策樹立の打ち合わせ 水戸市県開拓会館にて、県庁の桑島・森田係長、県開連の打越課長、組合から佐藤組合長、高橋（宗）氏会同、過般の基礎調査に基づき今後の方策について打ち合わせする。
	10月4日	農林省農林経済局統計調査部長野田哲五郎氏イタリア国にて客死する。 「満州以来、特に終戦後、外地新京で避難生活中に大八洲の避難民収容所に折にふれては来訪されお世話になった。帰国後も入植問題、経営指導、その他あらゆる点で影になり、日向（ひなた）になりして応援してくれた忘れられない野田哲五郎氏である。公用で外遊中イタリアで自動車事故のため客死したことは残念でならない。」 （これより抜粋記事） 建て直しの対策はその後実を結んでいった。政府の開拓振興対策の実施により、再建の道が開かれた。
昭和32年		
昭和33年	9月	台風22号が大災害をもたらした
昭和34年	8月	台風7号は堤防（溢流堤）を根こそぎ決壊し、田畑を押し流して流作地区の組合員住宅をはじめ畜舎や全て建物は、全半壊するなど、耕作者41戸の離農を考える程の深刻な打撃を与えるに至った。しかし建設省の突貫工事により、1ケ年で溢流堤は改良復旧され、組合の共同体制で住宅、畜舎などの建設工事を進め、難局の打開に努め、国、県、市町村の関係当局及び関係団体、開拓者組織、各界あがての指導援助により、奇跡的に復活再生できた。
昭和36年頃から		第二次振興対策が実施される等継続した開拓政策の支援を受け、組合員の営農意欲と生産力の向上も相まって、組合事業の運営及び借り入れ金の償還も軌道に乗りはじめた。
昭和50年頃		開拓行政が一般行政に移行しても支障がないまでに立ち直ることができた。

昭和53年		開拓の父組合長佐藤孝治氏が永眠された。
平成 2 年		組合の借金を完済し、入植から長年続いた借金経営から開放されることができた。
平成 4 年		友好訪中団としてかつての満州の開拓の地を訪れ、墓参を行った。

2. 『守谷さんちの牛乳』 市民アンケート調査表

〔『守谷さんちの牛乳』 アンケート調査企画〕

【調査目的】

- 1) 『守谷さんちの牛乳』 商品及びブランドの、現時点での浸透状況を把握し、これからの商品企画、マーケティング企画の立案に役立てる
- 2) アンケート調査は、『守谷さんちの牛乳』 ブランドのPRにもなるので、アンケート回収数を極力多くする（目標100サンプル・女性半数以上）

【調査内容】

- ・ 商品知名度
- ・ 商品飲料経験
- ・ 販路
- ・ 商品づくりの考え方
- ・ ブランドイメージ
- ・ 新商品開発アイテム
- ・ ブランドに対する期待

[調査票]

『守谷さんちの牛乳』 アンケートのお願い

つくばエクスプレス開通を控え、『守谷さんちの牛乳』マーケティング企画並びに街づくりの参考資料とするためのアンケート調査です。ご協力をお願いします。

お願い（提出期限 11月30日）

- [illegible]

5、『守谷さんちの牛乳』は、環境を考慮して100%容器回収の「ガラスびん詰方式」(200ml・120円、900ml・360円)を採用し、JA茨城みなみ「宅配ルート」で販売をしています(あなたの考えに近いものに○を)

イ) 現方式で良い

ロ) 低温殺菌牛乳の「紙パック入り」も新設定し、お店でも買えるようにしたほうが良い

ハ) その他()

6、『守谷さんちの牛乳』商品イメージをお聞かせください(各項目のいずれかに○を)

- | | | | |
|---------|---------|------------|-----------|
| ・安心感がある | イ) そう思う | ロ) どちらでもない | ハ) そう思わない |
| ・信頼できる | イ) そう思う | ロ) どちらでもない | ハ) そう思わない |
| ・美味そう | イ) そう思う | ロ) どちらでもない | ハ) そう思わない |
| ・親近感を持つ | イ) そう思う | ロ) どちらでもない | ハ) そう思わない |
| ・清潔感がある | イ) そう思う | ロ) どちらでもない | ハ) そう思わない |
| ・品質が良い | イ) そう思う | ロ) どちらでもない | ハ) そう思わない |
| ・家庭的である | イ) そう思う | ロ) どちらでもない | ハ) そう思わない |
| ・高級感がある | イ) そう思う | ロ) どちらでもない | ハ) そう思わない |
| ・意欲的である | イ) そう思う | ロ) どちらでもない | ハ) そう思わない |
| ・競争力がある | イ) そう思う | ロ) どちらでもない | ハ) そう思わない |

7、『守谷さんちの牛乳』は守谷市内河川敷近くで飼育・搾乳されております。

あなたの意見に近いものに○をお付けてください(いくつでも)

イ) 近くで生産されているので安心である

ロ) 一度飲んでみたい

ハ) 飲んだことがあるが、他の牛乳との違いが分からない

ニ) どこで売っているのか分からない。販売する場所を増やして欲しい

ホ) 都会に近いので守谷の観光に役立つ

ヘ) 乳搾りなどの体験ができると良い

ト) 出来たての乳製品が食べたい

チ) 観光お土産品があると良い

リ) 飼育している場所がわからない

ヌ) その他()

8、『守谷さんちの牛乳』の新商品としてふさわしいものに○をお付けください。現在の商品は「低温殺菌びん詰牛乳」、「生乳100%ヨーグルト」の2品目です（いくつでも○を）

- | | |
|------------|------------|
| イ) チーズ | ロ) アイスクリーム |
| ハ) シュークリーム | ニ) プリン |
| ホ) ケーキ | ヘ) クッキー |
| ト) ミルクパン | チ) その他 () |

9、牛乳を買う時、あなたは何を重視しますか（いくつでも○を）

- | | |
|----------|------------|
| イ) 品質 | ロ) 価格 |
| ハ) 安全・安心 | ニ) ブランド名 |
| ホ) 地場生産品 | ヘ) その他 () |

○『守谷さんちの牛乳』に関し、ご提案・ご要望等ありましたらお聞かせください

○あなたについてお聞かせください（いずれかに○を）

- ・ 性別 男 ・ 女
- ・ 年令 (10代・20代・30代・40代・50代・60代以上)

(調査主体) 社団法人 中小企業診断協会茨城支部・調査グループ

(調査会社) アトリエEarth First (本件担当 澤井和男)

Tel/Fax 0297-74-8466

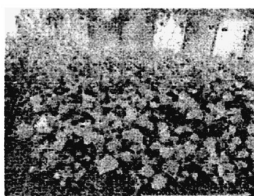
3. 伊奈町大豆オーナー制度

伊奈町 大豆オーナー制度

伊奈町観光協会では、当町の特色ある地域特産物の一つとして振興を図るため、健康食品である『青大豆』と『黒大豆』の作付けの生産振興に力を入れています。



黒大豆播種風景



黒大豆生育風景



黒大豆定植後の風景



青大豆直播後の風景



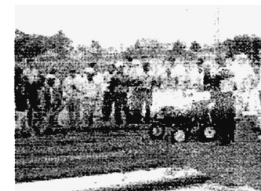
青大豆中耕作業風景



オーナー引渡し式



黒大豆さや



現地検討会



オーナーによる
味噌づくり体験教室

大豆のオーナーになって頂いた方は、基本的に収穫を各自で行っていただきます。(収穫は、枝豆として収穫してもよし、豆にして収穫してもよし！)

・青大豆のオーナー登録料：4,000円/区画(1区画当たり約60株)

・黒大豆のオーナー登録料：5,000円/区画(1区画当たり約60株)

※参考

平成15年度の黒大豆1区画の豆での収穫量は、約8kgでした。



【枝豆としての食べ頃】

青大豆・・・9月下旬～10月上旬頃

黒大豆・・・10月上旬～中旬頃

【豆としての収穫予定時期】

青大豆・・・11月上旬～中旬頃

黒大豆・・・11月中旬～下旬頃

伊奈町産の青大豆・黒大豆のネーミングも同時に募集いたします。

なお、採用された方には後ほど素敵な景品を差し上げます。

オーナー登録の仮予約をしたい方は、伊奈町観光協会(伊奈町役場 産業経済課内)までご連絡下さい。

仮予約をして頂いた方には、後ほど登録用紙をお送りいたします。

【お問い合わせ先】TEL: 0297-58-2111(代) 内線160～164

様式第2号

伊奈町大豆オーナー登録申込書

ふりがな

申込者氏名

印

利用者氏名

住 所

電 話 番 号

携 帯 番 号

私は、平成16年度伊奈町大豆オーナーになりたいので、ここに申請します。

平成16年 月 日

伊奈町大豆生産部会長 井土 正義 殿

〈事務取扱い 伊奈町観光協会〉

申込区画数	青大豆 ⇒	区画 申し込みます。
	黒大豆 ⇒	区画 申し込みます。
登 録 料 金	円	
圃 場 番 号	場所：	区画番号：No.
受 付 番 号	第	号
受付年月日		

※上記の太枠内をご記入して、登録料金を添えて伊奈町観光協会までご持参ください。（青大豆4,000円/区画、黒大豆5,000円/区画）

※直接登録料をご持参できないときには、現金書留でも可能です。

（ただし、手数料はご負担願います。）

※申込み区画数は、青大豆・黒大豆それぞれお一人様10区画までとなります。

4. 「ゆめファームやさと」案内



ふれあい農園（グリーンツーリズム農場）

都会の人たちの親子農業体験ツアー、中学・高校生の農業体験、生協組合員の産地訪問時の野菜収穫ふれあい農園など、農業とのふれあいを通して「食と農業の大切さ」を一緒に考えます。



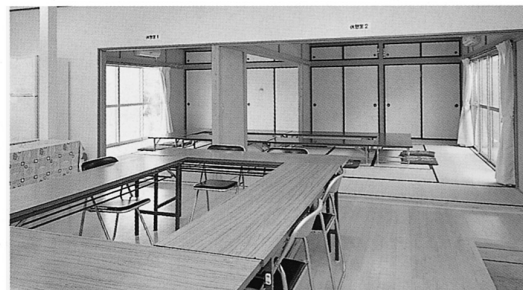
貸農園（市民農園）

実際に自分で野菜を作ってみたい方のために、1区画30平方メートルの貸し農園です。農具も設置しており、種を蒔き、植えつけ、栽培をして、年間を通して農業を実際に行なうことができます。トライしてみませんか？



新規就農研修農場

農外から農業を志す新規就農希望者を研修生として受け入れ、農場で2年間の研修が受けられます。研修生は実際に野菜の栽培をし、栽培技術や農業経営等の研修を受け、農業者として独立することをめざします。



休憩交流施設「ゆめはうす」

和室12帖2室、6帖1室、ホール、風呂、台所完備。会議や、手打ちそば教室・味噌教室などを開いたり、料理を通しての交流、生産者と消費者の交流などに使われます。

環境問題にも真剣に取り組んでいます

ダイオキシンや環境ホルモンが大きな社会問題となっている現在、私たちの食べ物は「だれが、どのように作ったか」が大切な問題です。そして同時に、「どこで生産されたか」が重要です。

そういう意味で、地域ぐるみの八郷町の環境保全型農業の取り組みは意義あるものだと考えています。水田への農薬の空中散布の廃止、農業用塩化ビニールの回収とともに、肥料袋や被覆ポリ等の農業資材の回収にもいち早く取り組んでいます。



5. 「クラインガルテン八千代」案内

4 月関東平野の真ん中にオープン！

滞在型市民農園

クラインガルテン八千代

入園者募集

270㎡の土地に
29㎡のラウベ(小屋)
が整備された農園です

クラインガルテン

クラインガルテン
イメージ図

八千代

関東平野の真ん中に！

茨城県八千代町

クラインガルテン（滞在型市民農園）八千代

施設概要

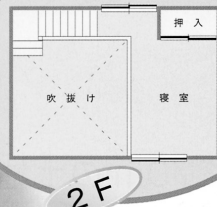
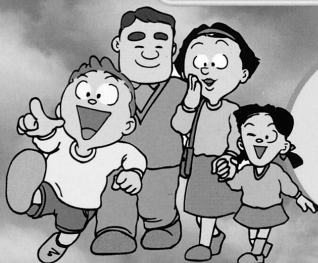
270m²の土地に29m²のラウベ（小屋）が整備された農園です。ラウベには水道・電気・バス・トイレを備えています。

所在地／茨城県結城郡八千代町大字松本地内

利用期間／4月から翌年の3月まで（5年間まで延長可能）

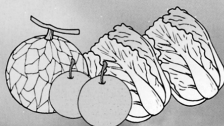
年間利用料／400,000円（光熱水費別）

募集区画／20区画



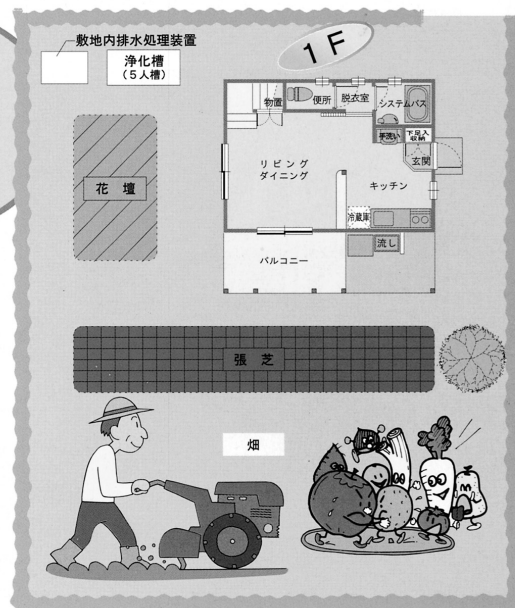
クラインガルテンとは……

クラインガルテンとはドイツ語で『小さな庭』、ラウベとは『小屋』を意味します。



八千代町は関東平野のほぼ中心に位置し、首都圏の重要な食料供給基地です。農業が基幹産業で水稻、メロン、白菜、梨などいろいろな野菜を作っています。特に白菜は、日本一の生産量です。

クラインガルテンの隣には「八千代グリーンビレッジ」があります。八千代グリーンビレッジは平地林を生かした農村公園で、キャンプ場やバーベキュー広場、農産物加工施設などが整備されています。また、「憩遊館」では地下1,500mから湧き出ている天然温泉「やちよ乃湯」を楽しむことができます。農作業で汗をかいた後は温泉につかれば心身ともに癒されることでしょう。



クラインガルテン平面図
（ラウベと区画）



茨城県八千代町 産業課

〒300-3592

茨城県結城郡八千代町大字菅谷1170

TEL. 0296-48-1111（内線273）FAX. 0296-49-3944

<http://www.town.yachiyo.ibaraki.jp/>

交通のご案内

常磐自動車道「谷和原IC」から国道294号と125号を経由して、東京からクラインガルテン八千代まで約2時間。

〔平成16年度マスターセンター補助事業〕

茨城県におけるアグリビジネスの可能性の考察と提言

グリーンツーリズムと『守谷さんちの牛乳』プロジェクト

発行日 2005年 1 月31日

発行者 社団法人中小企業診断協会茨城県支部
 支部長 安 四 郎

〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-2-51 小松ビル内

TEL 029-224-5086 / FAX 029-224-2522
